



ナホム James Tissot

ナホム書はエルコシュの人、ナホムの二ネベについての託宣として、詩の形でナホムの幻を記しています。エルコシュという地名、史上最も狂暴な国家と言われたアッシリアの都二ネベの陥落というキーワードが預言書の中でも特異なものであると感じられます。

預言者ヨナがアッシリアの都二ネベの滅亡を予言するように命じられ、苦慮の末、なんとか二ネベに赴き、預言したところ、二ネベの人々は王、大臣を始めとし、人も家畜も悔い改めたという寓話と見なされている預言書があります。それから約 100 年後、紀元前 612 年にアッシリアは新バビロニアとメディアによって滅亡しました。都二ネベの陥落の様子を冷徹な目で見つめ、神の報復と確信して記録したのが、預言者ナホムです。

2 年前、私は二ネベをグーグルマップで探して、驚きました。二ネベはイラクの都市モスルの一部で、チグリス川の東岸にあります。モスルは ISIS(イスラム過激派組織)が占拠し、他宗教、異文化へ攻撃、破壊を繰り返していました。更に空爆を受け、瓦礫の街となった姿が放映されていました。2018 年にやっと解放されたようですが、今も惨憺たる状況です。

エルコシュは <http://www.alqush.com/> で見ると二ネベの北 30km、山岳地方にあり 28 世紀に渡る歴史を持つ町ですが、建設の当初から信仰の山的要素を持ち続けています。現在はイラクの人口の 1% のキリスト教徒(主としてカトリック)が住む町です。エルコシュは 2014 年は ISIS の攻撃を食い止めたと言われています。シナゴグの遺跡(右)にはナホムの墓があったと言われています。



ナホムの信仰は主は恵み深く、苦しみの時には砦となり 主に身を寄せる者を御心に留められる(ナホム1:7)という絶対的な信頼であったと思います。二ネベで、軛を架せられ、鎖で繋がれ、奴隷のような日々を送っていたナホムにとって、神は必ず報復されると確信していました。主は海を叱って、乾かし、すべての川を干上がらせられる。山々は主の御前に震え、もろもろの丘は溶ける(1:4)と神の力の大きさを述べています。

一方、二ネベは勇士の盾は赤く／戦士は緋色の服をまとう。戦の備えをする日に／戦車の鋼鉄は火のように輝き／槍は揺れる。戦車は通りを狂い走り、広場を突き進む。その様は松明のように輝き／稲妻のように走る。(2:4)と強固な戦力を蓄え、しかも狂暴に戦力を振るう恐ろしい都です。

ナホムの二ネベへの怒りは主はお前について定められた。「お前の名を継ぐ子孫は、もはや与えられない。わたしは、お前の神の宮から／彫像と鑄像を断ち／辱められたお前のために墓を掘る。(1:14)と徹底的な裁きを預言します。そして、二ネベの陥落を「完膚なき報復」として細部にわたって記しています。襲撃を受けた都の門と城壁、右往左往する將軍たち、手間取る防衛、王妃たちの拉致、攻撃力を誇った者たちの恐怖と逃げる者、財宝、宝物の略奪、戦車、騎兵の突撃、暴力、流血、屍の山、そして破壊。ナホムはその一つ一つを、詩的表現で、奔流のように澱みなく、あらわに描いています。最後にどんなに堅固に軍備、戦力を蓄える国、都も滅びると言います。そして「お前のうわさを聞く者は皆 お前に向かって手をたたく。お前の悪にだれもが常に悩まされてきたからだ」(3:19)と二ネベを嘲笑しているのです。